

2019年度 千歳基地航空祭開催

4
就
鳥
く
云
だ
よ
り



千鷲会
広報部作成



今年の航空祭は8月4日、晴天で強い日差しではあるが爽やかな風が漂う北海道らしい天気の中約4万人の入場者を迎え賑やかに行われた。

基地正門前には道内外から航空ファンや家族連れなどで溢れ、予定時間より早くゲートオープン。開門と同時にエプロン地区へと急いでいた。航空祭は佐藤千鷲会会長・寺崎千歳基地司令・山口千歳市長らのオーブニングのテープカットと同時に2機のF15戦闘機が上空を通過、オーブニングを飾った。

地上展示ではペトリオットミサイル、除雪車、消防車、各種戦闘機及び装備品等が展示され、中でも今年就役したばかりの新政府専用機B-777は圧倒的な存在感で来場者の注目を集めていた。

飛行展示では、政府専用機やF15戦闘機8機による航過飛行。救難機の救難展示、F15や米軍のF16の機動飛行ではアフターバーナーの轟音と共に低空飛行や急旋回等、大空を駆け抜ける迫力に歓声が上がっていた。注目のブルーインパルスは2機だけの曲技飛行となったものの、高速での高度なアクロバット飛行に各演目が披露される度、拍手と共に大歓声が上がっていた。曲技飛行を楽しみに来場した方もハートを描いた華麗な演技をカメラにしっかりと収め、来てよかったと十分満足していた。



祝賀会で挨拶する佐藤会長(基地体育館)



前夜祭受付業務に奮闘中の千鷲会会員(ホテルグランテラス千歳)



基地慰霊碑整備を終えて